

世界遺産

ニュース (NO. 11)

発行：長崎県教育委員会



長崎の教会群を世界遺産へ

九州・山口の近代化産業遺産群

長崎県で世界遺産登録へ取り組んでいるものは「長崎の教会群とキリスト教関連遺産群」の他に、「九州・山口の近代化産業遺産群」があります。

近代化産業遺産群とは・・・？

江戸時代の終わりごろから第二次世界大戦の終わりまでのあいだに、それまで日本になかった技術や機械が西洋（ヨーロッパやアメリカ）からやってきました。人が手作業でつくっていたものを、機械などを使ってつくることで、今までよりもかんたんに、早くつくることができるようになりました。このような技術や機械が伝わったことで日本は急激に変化していきます。このことを近代化といい、その当時使っていた機械やつくっていた場所などを近代化遺産といいます。

九州・山口の近代化産業遺産群は、長崎県・福岡県・鹿児島県・山口県などの8県にあり、世界遺産登録に向けた取組をしています。

長崎県には、小管修船場跡、北溪井坑跡、端島炭坑、旧グラバー住宅を含む8つの資産があります。

平成21年1月に九州・山口の近代化産業遺産群が世界遺産暫定リスト（※）に登録されました。

（※）世界遺産暫定リスト・・・世界遺産の候補を書いた一覧表

あみだくじで答え合わせをしてみよう！

☆写真を見て、それぞれなにをする場所だったかわかるかな？



萩反射炉
山口県



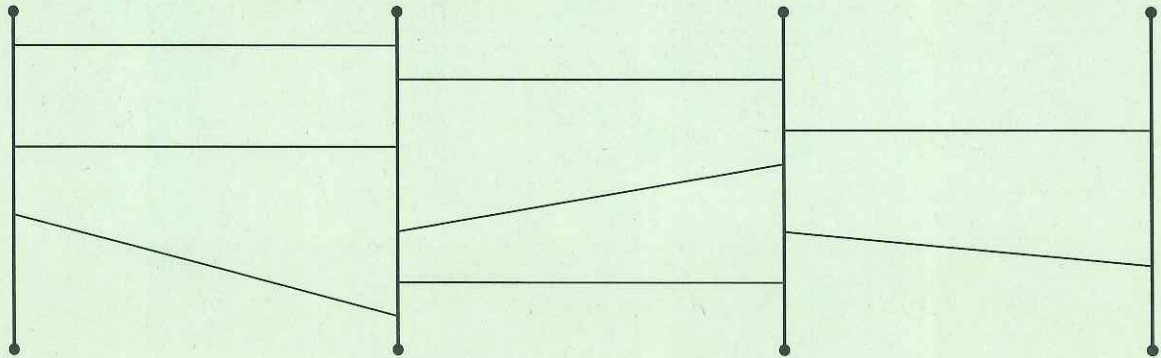
旧鹿児島紡績所技師館
鹿児島県



三角西港施設
熊本県



三池炭鉱万田坑施設
熊本県



鉄をつくっていたところ！

石炭の貿易をしていたところ！

石炭をほっていたところ！

糸のつくり方を教えていた人たちが宿泊していたところ！



こすげしゅうせんじょうあと
<小菅修船場跡>
 こすげまち
 長崎市小菅町

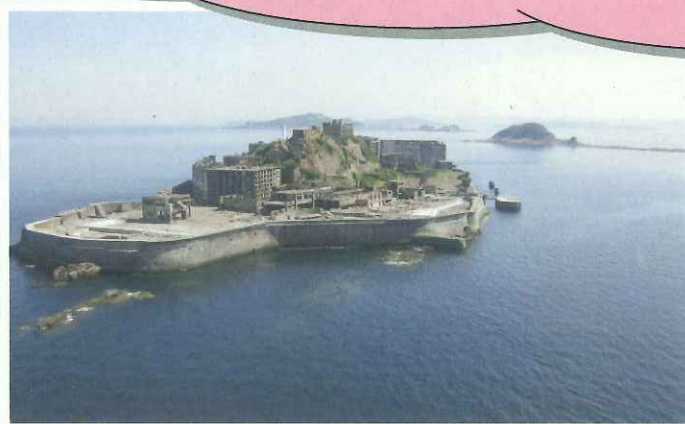
日本で最初につくられた近代的な船の修理場です。
 江戸時代の終わりごろ、長崎で使われていた船は中古の船が多く故障ばかりしていました。
 そこで、船を修理する場所がほしいとたくさんの人が望んだため、薩摩藩の武士であった五代才助・小松帯刀・イギリスの商人トーマス・ブレイク・グラバーらによってつくられました。



ほっけいせいこうあと
<北溪井坑跡>
 たかしままち
 長崎市高島町

北溪井坑跡は、日本ではじめて西洋の最新技術である蒸気機関（蒸気（じょうき）の力で機械（きがい）を動かすこと）を使ってあなをほり石炭をとったところです。
 石炭をほる技術はここから福岡や北海道に伝わり、日本の炭坑開発につながっていきました。

きん だ い か さ ん ぎ ょう い さ ん ぐ ん
長崎県の近代化産業遺産群



はしまだんこう
<端島炭坑>
 たかしままち
 長崎市高島町

端島炭坑は、1810年ごろに発見され1870年から石炭をとるようになったところです。
 また、小さい島でありながら石炭をほる仕事をしている人が一時期は約5000人も生活していて、石炭の島として日本の近代化を支えていました。
 1974年に炭坑が閉鎖され、無人島になりましたが、現在は船着場などをつくり、島へ入ることができるようになっています。



きゅう じゅうたく
<旧グラバー住宅>
 みなみやまてまち
 長崎市南山手町

イギリスの商人トーマス・ブレイク・グラバーは、1859年貿易会社をつくり、江戸時代の終わりごろから明治時代にかけて造船・炭坑・鉄道などで外国の機械技術を使って、日本の近代化に力をつくしました。
 「旧グラバー住宅」は、建てられた年代がわかる木造の洋館としては、日本で一番古いものです。
 現在はグラバー園の中心施設として、多くの観光客がおとずれています。

長崎には教会群やキリスト教関連遺産群のほかにも、こんな遺産があるんだね♪
 ぜひ行ってみたいな♪

